

# 読書導いた恩師 本に



著者は東京五輪のあつた1964年、九州にある国立有明工業高等専門学校（5年制、福岡県大牟田市）に入学した。そこで出会ったのが棚町だつた。

いわば転轍機であつた棚町先生がどう生きてきたのかを解き明かすことだが、自分の人生の再確認につながると思った」と語る。

「先生は教科書を一切使わず、古今東西の名作執筆の動機を「人生の

大阪自由大学の理事長でジャーナリストの池田知隆さん(70)が、恩師で伝説の国語教師、棚町知彌(1923-2010)の評伝「読書と教育」を著した。教科書も使わず古今の名作を読み聞かせ、生徒を読書の世界に導いた教師が歩んだ軌跡。それは、そのまま現代史を映し出しており、次世代への貴重な記録になっている。

有本忠浩

# ジャーナリスト 池田 知隆さん(70)

自分の生きてきた時代を次世代に語り継ぐ試みでもあった。

復員後はGHQ（連合国軍総司令部）検閲局に勤めたが、軍隊へ身を投じる。

棚町はその後、長岡技術科学大学教授、国文学研究資料館教授などを歴任した。文理の融合、徹底した読書による教養教育。戦中・戦後の世相、日本人のエリート層にありがちな「変わり身の目さ」。この評伝は、複雑な現代を私たちがどう生きるかを考える上でも、さまざまに示唆を与えてくれる。

「読書と教育～戦中派ライブラリアン・棚町知彌の軌跡」（現代書館・2160円）。本の帯の推薦文はノンフィクション作家、後藤正治さん。

をひたすら読書することだった。試験は読書返る。夏目漱石郎」、矢内原忠の尊敬する人物露伴の「五重塔藤村の「破戒」・マルタン・デルの「チボ一家」など。生徒はやの奥深さ、世界に自覚めでいく評伝が明らか町の経歴は、奔走した。父は戦万丈だ。

み聞かせ  
感想文を  
「」と振り  
の「三四  
雄の「余  
、「幸田  
、「島崎  
、「ロジエ  
ユ・ガード  
の人々」  
がて、生  
の多様性  
た。  
にする棚  
放で波瀾  
前の思想  
る。「彼に出会ったこと」で  
僕の人生は確実に変わつ  
た。高専はエンジニアの  
養成学校の趣きがあった  
が、読書教育によって、  
自分はいかに生きるべき  
なのかを深く考えるきっ  
かけになった。その結果  
として僕は新聞記者を選  
んだ

と  
京都

A grayscale map of Europe with a focus on the Balkan Peninsula. The Balkans are highlighted in a darker shade of gray, while the rest of the continent is shown in a lighter shade. The map is circular, with the Balkans occupying the lower-right quadrant.

# カルチャーウィーク

# 木 ちよい旅

見・聞・樂 金

# 学ぶ・育つ・挑む 土

火